

元気な農業 目指したい

国際情勢をはじめとして、経済構造、消費者意識など、農業を取り巻く環境は近年急激に変化してきました。そこで、報道などでよく耳にする言葉や、田原市の新しい取り組みなどを、キーワードと共に紹介します。

トレーサビリティ

消費者から、「食の安全・安心」が求められています。店頭に並ぶ農産物が、いつ、誰によって、どのように生産・流通・小売されたか明らかにして、商品の透明性を確保する取り組みが行われています。

環境保全型農業

農業には、食糧を供給するという機能のほかに、土地の維持や環境の保全などに果たす役割もあります。市内で排出される家畜排せつ物を良質な肥料にして土壌に還元するなど、耕種農家と畜産農家が連携して**化学肥料や農薬の低減**を図り、持続可能で安全な生産に取り組んでいます。

低炭素施設園芸

施設園芸の照明や暖房では、多くの燃料を消費するため、地球温暖化の原因となる**二酸化炭素の排出抑制**が課題となっています。そこで、田原市では、消費電力の少ないLED

安心・安全なキャベツ生産に取り組む

JA 愛知みなみ 常春部会



●農林水産省の広報紙「aff (あふ)」でも紹介されました。(H21年3月号)

市内のキャベツ農家446戸が所属するJAの生産部会です。生産者全員が愛知県の「エコファーマー」の認定を受けています。部会では、化学肥料や農薬を減らす取り組みをはじめとして、おいしいキャベツの普及活動に力を入れています。

HP <http://www.ja-aichiminami.or.jp/tokoharu/bukai/index.html>

生産者のこえ



田中智和さん (神戸町)

3年間のサラリーマン生活を経て、就農後10年経ちます。レタスなどの露地野菜を主体に、施設野菜も手がけています。以前、全国農業青年クラブ連絡協議会(4Hクラブ)の東海ブロック会長を務めていたとき、他地域の後継者不足を目の当たりにして、田原市はまだ恵まれていると実感しました。ただし、嫁不足は共通の課題でした。農業を取り巻く環境は、これからまた大きく変化していくと思いますが、チャンスと捉え、同世代の生産者と力を合わせて、田原市の農業を強くしていきたいと思っています。祖父の世代で豊川用水が造られ、父の世代で「農業日本一」になりました。その恩を感じながら、僕たちは次の世代につながるような農業のあり方を考えなければと思っています。

地域ブランド



●従来の白熱電球に替え、赤色LEDで実証実験を行っている電照菊の温室

照明や採光性の高い太陽光発電パネルの設置などによって、施設園芸の省エネや効率化を目指す取り組みが始められています。

商品の付加価値を向上させるため、**地域の良いイメージとの相乗効果**による**ブランドづくり**が進められています。



●JAの「どうまい」シリーズ



カクメロ

愛知県立渥美農業高等学校の生徒が考案し、平成17年(2005年)に商標登録された四角いメロン。地域ブランドの発信に貢献しています。

農業に関するご意見・お問い合わせ

▼農政課 ☎23局3517

✉nosei@city.tahara.aichi.jp

▼営農支援センター ☎45局3114

✉einou@city.tahara.aichi.jp

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/section/einou/>